

令和5年度 全国高等学校総合体育大会サッカー競技（男子）参加報告書

岡山県サッカー協会/大久保 秀斗

1.初めに

今回は強化審判員として中国地域を代表して全国高等学校総合体育大会に参加しました。

先ずは無事に何事もなく担当割り当てを終えることができました。

参加までにご指導を頂き、有難うございました。

2.今大会のテーマ

Players' management のための表現力を高める

〈期待したい効果・結果〉

⇒必要とされる時に、スピード、加速を伴った動き出しと、全体的な運動量

⇒効果的な表現力

⇒納得ある判定ができるようになる

⇒ベンチ（監督・役員等）への対応

3.大会参加スケジュール（審判員必携引用）

日程	7月28日(金)	7月29日(土)	7月30日(日)	7月31日(月)
内容	集合日	1回戦(20試合)	2回戦(16試合)	3回戦(8試合)
試合会場		B: カムイの杜球場A C: カムイの杜球場B D: 東光スポーツ公園球場A E: 東光スポーツ公園球場B F: 旭川実業高校 G: 忠和公園多目的広場A H: 忠和公園多目的広場B	B: カムイの杜球場A C: カムイの杜球場B D: 東光スポーツ公園球場A E: 東光スポーツ公園球場B F: 旭川実業高校 G: 忠和公園多目的広場A H: 忠和公園多目的広場B	B: カムイの杜球場A C: カムイの杜球場B D: 東光スポーツ公園球場A E: 東光スポーツ公園球場B
男子スケジュール	宿泊先 「美穂INN旭川駅南口」 (旭川市宮下通11-1176) (TEL:0166-25-2045)	起床 6:30～ (～9:00入場)	起床 6:30～ (～9:00入場)	起床 6:30～ (～9:00入場)
		各会場行き配車時刻は別表を参照	各会場行き配車時刻は別表を参照	各会場行き配車時刻は別表を参照
		7:40 第1便:会場着	7:40 第1便:会場着	7:40 第1便:会場着
		8:00 第1試合90分前MCH	8:00 第1試合90分前MCH	8:00 第1試合90分前MCH
		8:20 第1試合70分前MCH	8:20 第1試合70分前MCH	8:20 第1試合70分前MCH
		9:30 第1試合	9:30 第1試合	9:30 第1試合
		10:10 第2便:会場着	10:10 第2便:会場着	10:10 第2便:会場着
		10:30 第2試合90分前MCH	10:30 第2試合90分前MCH	10:30 第2試合90分前MCH
		10:50 第2試合70分前MCH	10:50 第2試合70分前MCH	10:50 第2試合70分前MCH
		11:50 第3便:会場着	11:50 第3便:会場着	11:50 第3便:会場着
		12:00 第2試合	12:00 第2試合	12:00 第2試合
		13:00 第3試合90分前MCH	13:00 第3試合90分前MCH	13:00 第3試合90分前MCH
	14:00 代表者会議(保さん) 会場: 旭川市民文化会館	13:20 第3試合70分前MCH	13:20 第3試合70分前MCH	13:20 第3試合70分前MCH
		14:30 第3試合	14:30 第3試合	14:30 第3試合
		14:30 1-2便り 各会場発	14:30 1-2便り 各会場発	14:30 1-2便り 各会場発
		14:55 ホテル着	14:55 ホテル着	14:55 ホテル着
		17:00 3便り 各会場発	17:00 3便り 各会場発	17:00 3便り 各会場発
		17:25 ホテル着	17:25 ホテル着	17:25 ホテル着
		(フリー)	(フリー)	(フリー)
		18:00 振り返りミーティング https://zoom.us/j/99564270079 パスコード: 224414	18:00 振り返りミーティング https://zoom.us/j/99564270079 パスコード: 224414	18:00 振り返りミーティング https://zoom.us/j/99564270079 パスコード: 224414
	19:00	19:00	19:00	
	【全日本体育審判員協会ネット研修】			
	【JFA審判員ネット研修】			
20:00 全体ミーティング https://zoom.us/j/98194389229 パスコード: 010591	(フリー)	(フリー)	(フリー)	
21:00 (フリー)				

4. 担当試合

・1回戦 9:30 Kick off 東邦高校(愛知) 2-0 神村学園高校(鹿児島) @ 忠和公園多目的広場 A

主審: 小松 祐也 副審: 大久保 秀斗: 廣永 侑士 4th: 伊藤純也

審判アセッサー: 河合 英治

評価:

- ・チーム全体として安定したレフリングが出来ていた
- ・ラインに対してしっかりと正対して監視が出来ていたので今後も継続すること。
- ・オフサイドの判定も1テンポ遅れてでもしっかりと見極めてから判定ができていたので継続すること。

この試合では入場絵の成立時に神村学園の選手が体調不良を起こし、試合開始前に選手の交代を行った。ここでレギュレーションの確認や交代選手の補充をしない等の判断は間違いなくできたが、東邦高校のベンチに対して入場前までに選手交代があったことを審判団だけでは報告が出来ず、アセッサーの助言により開始前に東邦高校のベンチに伝えることになりました。何がいけなかったのか?を振り返りで考えたときに公平・不公平が生じるということを考えなくてはならないと教えていただきました。何事にも公平で物事を考えることが重要だと気づきました。

・2回戦 12:00 Kick off 関西大学第一 0-2 明秀日立 @ 東和スポーツ公園球戯場 A

主審: 大久保 秀斗: 副審: 宗像 瞭: 大瀬良 篤 4th 阿部 拓歩

審判アセッサー 木口 寛

評価:

- ・判定に対して問題なし
- ・スプリントや動きに関してもダイナミックかつ外に広がり角度をつけて見ようとしているところは今後も継続すること
- ・懲戒を示すときに PA 内に入ってしまったら PK に間違われる可能性もあるので外からの直接 FK であればまずはポイントに立ち FK を示してから懲戒を出したほうが分かりやすい。

・この試合での1番の重要なシーンはゴール前でのファールの判定のシーン

中/外の判定・DOGSO・SPAなのか・著しく不正・無謀・不用意なのか?

私はこのファールの判定をするときに DOGSO・SPA も考えましたが、どちらかと言われると、著しく不正・無謀なのかを重点的に考えた判定になってしまいました。

このファールのシーンがどういう状況なのか?ということをもまず考えて今後は判定をしなくてはいけなと感じました。

5. まとめ

昨年に引き続き全国高等学校総合体育大会に参加して、大会の成功の為に少しでも貢献が出来、良かったと感じています。

それと同時に他の地域の審判員と自分自身を比べると劣っている部分が多々あることも感じました。今大会自分自身の課題も多く見つけることができました。

今大会で学んだことは自分だけに還元するのではなく、中国地区の代表として行かせていただいた以上は中国地区の審判活動に少しでも還元しなくてはいけないと感じました。

今大会で学んだこと・課題・良い点を今後も自分自身で見つめあって最高にパフォーマンスが発揮できるように努力していきます。



～令和5年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会～

@北海道旭川市

2023年7月28日（金）～7月31日（月）

大戸 魁

【活動報告】

大会テーマ

「Player's management のための表現力を高める」

- ・必要とされるときに、スピード、加速を伴った動き出しと全体的な運動量
- ・効果的な表現力
- ・納得ある判定
- ・ベンチ(監督・役員等)への対応

〈大会 1 日目〉

宮崎日大 vs 関西大学第一 担当：主審 アセッサー：安元 利充氏
振り返り

- ・常に首を振ってボールと次の争点を見ているのは良かった。
- ・DOGSO のシーンでの対応
↳笛、カードのタイミング。
その後の選手対応を含めどのようにアクションを起こすか。
スムーズに再開に導くために方法を考える。

〈大会 2 日目〉

市立船橋 vs 大津 担当：副審 アセッサー：見付 和昭氏
振り返り

- ・シグナルや姿勢が綺麗だから自信があるように見える。

〈大会 3 日目〉

国見 vs 金光大阪 担当：主審 アセッサー：河合 英治氏
振り返り

- ・ 頭部負傷でファールにしたシーンはファールが起きた場所、けがの程度、その後のチャンスの可能性を考慮してADVの適用も考えてもよいかも。
- ・ フットワークが軽く攻守が切り替わったときには次の争点に動きだしているのはよかった。
- ・ FK マネジメントは丁寧で的確でよかった。
 - これから厳しい試合に当たっても整理して同じようにマネジメントする事。
- ・ カードの出し方
 - 遠くから示すのか。近くによって出すのか。走ってよるか。歩いていくのか。
 - カードを出すと決めた時点でその選手だけでなく他の選手へのマネジメントも始まる。そこまで見る事。
- ・ Rサイドで密集が起こって攻防しているときに逆サイドの状況を把握する。
 - その為にどのタイミングで見るのか考える。
- ・ ボールがどちらに転がるか分からないときは、お互い取ったらどこに展開したいか予測しておく。

まとめ

今回、全国高校総体に参加させていただきありがとうございました。自分自身とても大きな経験ができる大会となりました。特に大会のテーマであった「Player's management」については自分の試合と夜の研修会を通してたくさん学ぶものがありました。

今回学んだことを整理して地域の試合で取り組んでいき、中国地域に還元できるよう頑張ります。



令和5年度 全国高等学校総合体育大会サッカー競技（男子）参加報告

広島県サッカー協会 八重垣 真

1. 研修会のテーマ

「 Player's management のための表現力を高める 」

<期待したい効果・結果>

- ・必要とされるときに、スピード、加速を伴った動き出しと、全体的な運動量
- ・効果的な表現力
- ・納得ある判定ができるようになる
- ・ベンチ（監督・役員等）への対応

2. 研修会スケジュール

7月28日（金）	7月29日（土）	7月30日（日）	7月31日（月）
・全国研修審判員/ JFA 審判員 集合 ・20:00～ 全体ミーティング	・1回戦（全20試合） ・18:00～ 振返りミーティング	・2回戦（全16試合） ・18:00～ 振返りミーティング	・3回戦（全8試合） ・試合後、各会場で 振返りミーティング ・解散

3. 担当試合

- ・1回戦 12:00kick off 明桜（秋田）1-5 帝京長岡（新潟）@忠和公園多目的広場 B

主審：八重垣 真 副審：高田 直人/更科 一輝 4th:高須賀 哲平

審判アセッサー：梅本 博之 氏

評価：

- ・フットワークの軽さはストロングポイントである。継続すること。
- ・判定後、帝京長岡ベンチの異議の声に対して、主審としてどのように対応すべきだったのか。
- ・センターサークル付近で、膨らむ動きをして、副審と挟んで監視することを意識すると良い。

- ・2回戦 12:00kick off 羽黒（山形）1-4 高知（高知）@旭川実業高等学校

主審：八重垣 真 副審：村田 裕紀/森岡 宏紀 4th:二谷 夢翔

審判アセッサー：相樂 亨 氏

評価：

- ・試合を通して一貫して正しい判定（PK 含め）が出来ていた。

- ・相手競技者に対して足裏を見せてチャレンジ（接触がなく、多少距離があっても）は間接FKを取る。危険であり、ファウルを取らないと試合の温度が上がる要因になる。
- ・FK マネジメント
ペナルティーエリア内に壁を作ったときには、壁になった競技者に対してハンドの抑止を
ボディーランゲージを用いて行い、絶対にハンドや競技者の飛び出しをさせないようにする。
- ・反則した競技者への注意後、再開の笛が早い。間を10秒程度取り、再開すること。→試合をコントロールしやすくなる。
- ・**3回戦 18:00kick off 前橋育英（群馬）0-1 尚志（福島）@東光スポーツ公園球技場B**
主審：高橋 海星 副審：八重垣 真/増田 裕之 4th: 靱山 智哉
審判アセッサー：河合 英治 氏
評価：副審としては特になし。
全体として共有事項
 - ・マネジメントとはフィールドの選手・ベンチを管理すること。
 - ・マネジメントは選手と話すことではなく、第一に納得のある正しい判定をすること。その上で選手やベンチとコミュニケーションをとり、試合をコントロールしていく。※出る強さ、タイミング、間が重要。

4. まとめ

全国高校総体という高校生の夢の舞台にサッカー審判員として参加し、大会の成功のために微力ながら貢献できたことは良かったです。

担当した3試合ともに白熱した好ゲームでした。その中で、私自身、多くのことを学ばせていただきました。

今回の大会で得た経験を中国地域に還元できるように精進していきます。



令和5年度 全国高等学校総合体育大会 サッカー競技大会 男子 審判員派遣レポート
U-22 審判員派遣 広島県 2級審判員 平 裕太
2023年 7月28日～7月31日 1回戦～3回戦担当

大会テーマ「Player's management のための表現力を高める」

今大会が始まる前、計2回の事前研修が行われました。

また、U-22 派遣審判員を対象に JFA 名木利幸 氏より個別に事前面談をしていただきました。

FA 育成担当者として、広島県サッカー協会審判委員長 勝山正比呂 氏にご同席いただき、自分の試合映像をもとに、大会に向けて、ご指導いただきました。いつも通り

さらに、同県でインターハイ派遣経験がある、矢島光 氏に事前研修をしていただき、過去のインターハイから感じた大会の雰囲気、気をつけるべきことなど自分がインターハイに向けてより念入りに準備できる機会を設けていただきました。勝山正比呂 氏、天川充弘 氏、倉橋健二 氏にご同席いただき、応援の言葉をいただきました。

第1回 7月14日

- ・インストラクターの皆様の紹介
- ・大会概要、
- ・審判チームの今大会テーマ
- ・飲水タイム、クーリングブレイクについて

第2回 7月21日

- ・事前に共有された5つの映像に関してグループディスカッションで意見共有、発表。
- ・「マネジメントとは」「表現力とは」を JFA 木口氏、見付氏よりレクチャーがありました。

集合日の7月28日の夜、zoomにて全体ミーティングがありました。

- ・扇谷委員長からのご挨拶
- ・運営担当者、インストラクターの皆さんの自己紹介
- ・安元氏に「マネジメントの表現力」泉氏に「大会運営と協議について」のレクチャー
- ・「割り当て発表と移動手段について確認」という内容で次の日から始まる1回戦に向け準備しました。

7月29日 1回戦 尚志高校（福島県）vs 丸岡高校（福井県） 9：30キックオフ
R 平裕太 A1 田坂慎乃介 A2 細谷励 4th 堀毛憲太郎

7月30日 2回戦 金光大阪高校（大阪府①）vs 武南高校（埼玉県） 14：30キックオフ
R 小松祐也 A1 平裕太 A2 小林勇輝 4th 増田裕之

7月31日 3回戦 旭川実業高校（北海道①）vs 市立船橋高校（千葉県） 15：30キックオフ
R 大嶺 俊 A1 岡田太一 A2 平裕太 4th 佐々木慎哉

3試合とも、アセッサーは武田進さんに務めていただきました。

[1日目振り返り内容]

全体的に違和感はなく、審判団で協力できていて、判定も良かった。

PKとなった際、競技規則の改正点であった、ゴールキーパーに、キックを遅らせたり、キッカーを不正に惑わせるような動き（クロスバーに触れるなど）をしてはならないことをジェスチャーと言葉を用いて説明していて良かった。という評価をいただきました。

ただ、マネジメントに関して、

- ・FKの際、壁が奇声を発していたが対応しなかったこと。
- ・かなりの強度でアフターにタックルをしたプレーがあり、タックルを受けたチームのチャンスが続いたため、アドバンテージをとり、そのチームはシュートまでいった場面。アドバンテージは良かったものの、そのプレーが切れた後、アフタータックルした選手にマネジメントしなかったこと。あの場面は注意、もしくは警告を示すというマネジメントが必要だ。とご指摘をいただきました。

[夜の振り返りミーティング] 相楽氏、鈴木氏

- ・マネジメントする理由=良い試合にするため
- ・審判員がマネジメントしたい。ではなく、試合に合わせた適切なマネジメントをしてほしい。

→そのために選手がどうやって点取りたいのか、チームがどうやって勝ちたいのかをまず第一に考え、マネジメントすることが大切。

- ・ベンチから近い副審、4thは役員、控え選手から高圧的な態度、行動をとられたとき、自分のプライドや感情はまず置いて冷静に考えなければならない。

その方法として主審が一番コントロールしやすいよう対応をとにかく考えるべき！

とレクチャーしていただきました。

[2回戦振り返り内容]

この試合はPK戦に突入し、の5本目の後攻で、決めれば金光大阪の勝利、止めればサドンデス突入となる場面でキックの前にキーパーの飛び出しがありセービングしたため、フラッグアップしてやり直しをさせた。

その前のキックから、そのキーパーは若干飛び出していた。

その時に「今の飛び出してたからね。これで止めちゃうとやり直しになるから。」

などと1つ声をかけるなどというマネジメントがあると有効的になることを教わりました。

夜の振り返りミーティング 武田氏、梅本氏

前日の振り返りでzoom上で画面共有する映像が見つらいことから起点をきかせ、神奈川県の本多氏が振り返りで使用する映像を事前に情報共有のオープンチャットにて送信し、より鮮明な映像が共有でき、議論が濃密になるよう考えていた。気づきから解決策を考え実行する姿を見習いたい。

繰り返しの事象によるマネジメントについてを議論した。注意をするのか、警告を示すのか、マネジメントはその場で「完結」させ、同じ反則を引き起こさせないように努めることが大切。

[3回戦振り返り内容]

A2に対して、特にご指摘はありませんでした。

この試合で、自分と逆側のサイドで、守備側の選手がスローインの再開を遅らせようとしたところ、スローワーの攻撃側の選手がその選手にボールを投げつけた場面がありました。

主審は両選手を呼び、注意でその場を収めました。

振り返りが終わった後でもこの事象について話し合いました。

～最後に～

この度は全国高等学校総合体育大会にU-22審判員として派遣させていただき、ありがとうございました。

北海道旭川の素晴らしい地でこの素晴らしい大会が無事に終われたことは、選手、チームスタッフ、大会運営の方々、審判関係者、またその他の方々の協力があったからこそです。感謝申し上げます。

安元氏から、「成長していく上で学ぶのではなく、学びにいく姿勢、気づきを増やすことが

何より大切。ここで学んだことを今後に活かしてください。」というお言葉をいただきました。

審判マネージャーの泉弘紀氏より、「今回の審判員は非常によく頑張ってくれました。参加チームの監督さんからも今回の審判員はよく走ると評価いただきました。」

「最後に、近年1級を目指す人が増えている現状の中、1番大事なことが、審判活動そのものを大切にしてほしいということ。多くの人の力で審判ができていないことを忘れないでほしい。

審判活動で得た人間関係を大切にしていってください。」というお言葉をいただきました。

この大会を通して「Player's management のための表現力を高める」というテーマに対し、全力でやり切れたこと。レベルの高いゲームを経験できたこと。審判チームとして、JFA インストラクターの方々、各地域で活躍される先輩審判員、1級で活躍される審判員と多くの交流し、今までとは違うたくさんの新しい刺激を受けることができました。

この経験は自分の今後のレフェリー人生にとって大切な経験となりました。

審判活動そのもの、目の前の試合の1つ1つを大切に全力を尽くすことを胸にこれからの審判活動に取り組みたいと思います。